

国

語

(一まいめ)

*問題作成のために、原文を一部変更したところがあります。

1

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

尾びれをゆらゆらさせながら、クロエは水面ごしに空を見あげた。よく晴れた雲ひとつない青空だ。すごくきれいな青。

クロエは思い出した。「色はみんなおなじように見えているわけじゃない」と聞いたことがある。小さいとき、おとしよりたちがおしゃべりしているのをそばで聞いたのだ。意味はわからなかったけれど、不思議な話だったから、今でもおぼえている。

あれはどういう意味だったんだろう？

今、この空の青を、わたしはじぶんの目で見ている。だれでもじぶんの目でしか見られないんだから、おたがいにどう見えているかは、わからない。

「青」というおなじ言葉でよんでいるけれど、それぞれ見ている色は、ちがうかもしれない。

そうか、そういうことだ。①クロエはきゆうにドキドキしてきた。

ギンコちゃんにすぐ話しにいかうと思った。ギンコちゃんは小さなころからの友だちだ。

行くと、ギンコちゃんはほかの鯉たちとおしゃべりをしていた。クロエはあわてて川底にある大きな石のかげにかくれた。

ギンコちゃんは楽しそうにしゃべっている。クロエはじっと待った。

しばらくしてほかの鯉たちがいなくなると、石のかげから出た。

ギンコちゃんはすぐにクロエに気がついた。

「クロエちゃん、おはよう」

「ギンコちゃん聞いて聞いて。今②すごいことがわかったの」

クロエはいっきに話した。でもギンコちゃんはすぐにはわからなかった。

「それって、えっと、つまり」

ギンコちゃんはクロエがかくれていた石を見る。

「たとえば、その石はわたしには灰色に見えるけど、クロエちゃんには灰色に見えないってこと？」

「ううん、わたしにも灰色に見えるよ。でも生まれたときから、おたがいにその色を「灰色」だとおぼえているでしょ。だけど、おたがいの見えかたを体験することはできないから、わたしが見えている灰色とギンコちゃんの見えている灰色は、ちがう色かもしれないの。もしかしたらギンコちゃんの灰色は、わたしにとつての黄色かもしれない。でもそこは永遠にわからないのよ」

「あっ、そうか」

ギンコちゃんがうなずいた。

③「おなじ灰色だっていっても、見えている色はちがうかもしれないってことね。わあ、おもしろいね！」

クロエはうれしくなった。

それからクロエとギンコちゃんは、ちょっと散策に出かけることにした。

上流にむかってのんびりおよぎ、ススキのはえている川べりまで行った。

川底の砂地から水がわきでているところがあった。ときどき空気がまじるらしく、小さな泡が出てくる。

泡がぶくぶく出ているまうえに行つて、からだに当たった。二人はきゃあきゃあ笑った。

「くすぐったくておもしろいね」

「ほんとにおもしろい」

クロエは、(A)。

「今の『おもしろい』っていうのも、さっきの色とおなじかもしれない」
「え？」

ギンコちゃんがふしぎそうにいった。

国語 (二まいめ)

「おもしろいは、おもしろいだよ。それはおなじでしょ」

「でも、すごいとおもしろいか、ちょっとぴりおもしろいか、これまで味わったことがないおもしろさか、なにかに似ているおもしろさとか、いろいろあるよ」

「そういえばそうだね」

新しい発見にクロエはまたうれしくなった。

「だから、おなじ『おもしろい』もちがうかもしれないんだよ」

ギンコちゃんがだまりこんだ。

「ギンコちゃん、どうしたの」

「なんかちょっと」

「なんかちょっと、どうしたの」

「なんかちょっと……、さびしくなっちゃった」

クロエはびっくりした。

「なにがさびしいの？」

「だって、『おもしろい』っていいあっても、ほんとうはわかりあってないってこと？」

クロエは（B）。

「ちがうよ、そんな意味じゃないよう」

でもいいながら、ちょっと自信がなくなる。もしかして④
④
そういうこと？

クロエもギンコちゃんもだまりこんだ。

砂底からまたぷくんと泡が出て、まっすぐ水面にむかってのぼっていき、はじけた。

「そろそろ、帰ろうかな」

ギンコちゃんがいった。クロエもうなずいた。

「うん」

もとの場所に帰ってくると、ギンコちゃんが思い出したようにいった。

「そういえば、お昼すぎに橋からパンをまくにんげんが来るらしいの。クロエちゃんもいっしょに食べにいこうよ」

「わたしとギンコちゃんだけで？」

「ほかの子たちも来るけど」

「じゃ、やめとく」

ギンコちゃんはがっかりしたようだけれど、なにもいわなかった。

この後ギンコちゃんは、クロエと気まづくなってしまった。そのことでなやみながらもクロエに会っても話しかけなくなった。クロエも、ギンコちゃんがなやんでいることを知り、自分からはギンコちゃんに会いに行くことはなくなった。そして、ひとりで過ごすようになった。

ある日、泡の帰りみち、ギンコちゃんが川の反対がわを泳いでいるのを見た。

ギンコちゃん！ひさしぶりに見るギンコちゃんだ。

ギンコちゃんもクロエに気がついた。でもすぐに顔をそらし、ほかの鯉たちといっしょにまっすぐ、およいでいった。

クロエはそのまま下流まで行った。にんげんが捨てたあみがそのままになっているところがある。ひっかかるとあぶないから、ほかの鯉たちはめったに來ない場所だ。

あみのうえにちょっと、よこたわってみる。

からだの半分が、空気にさらされて苦しい。川ぞいの道を走る車の音も、乱暴でこわい。空も水面
きよだい
ごしに見るのところが、巨大で、今にもおしつぶしてきそうだ。

国語 (三まいめ)

「たすけて」

かぼそい声をした。じぶんがいったのかと思った。でもそんなはずはない。また「だれか、たすけて」と声をした。

クロエは水のなかにもどった。あみのはしに鯉がひっかかっている。クロエとおなじ、墨色すみいろをしたおばあさんの鯉だ。クロエはあみにかからないように気をつけながら、おばあさんにちかづいた。鼻さきをつかって、おばあさんの尾びれと、ひっかかっているあみをはなした。

「ありがとう」

おばあさんはほっとしたようにクロエを見た。

「あなたも、あみにかかってしまうかもしれないのに、なんて強い子でしょう」

そういうと、おばあさんはよろよろ、およぎだした。

強い子じゃない。

クロエはおばあさんを見送りながら、(C)。

でも、強い子になりたい。

水面ごしに空を見あげると、すっかり日がくれて、ふかい紺色こんいろをしている。

この紺色を、わたしが見ているんだと、クロエは思った。

ふかく息をはいた。

わたしは、わたしだ。ほかのだれでもないんだ。

住みかにもどったクロエは、毎日ひとりでおよぎ、食べものをさがし、空を見て、ねむった。「ほんとうはわかりあってないってこと?」というギンコちゃんの言葉もなんとも考えた。

ある日、川底から出る泡を見にいった。大きな泡がひとつわいて、きらりとうかんだ。

うしろで気配がした。ふりむくと、ギンコちゃんがいた。はずかしそうにだまっている。クロエもすぐに話せない。

ギンコちゃんが、小さな声でいった。

「今の気持ちがおなじだといいな」

クロエは胸むねがいっぱいになり、ギンコちゃんのまわりをくるりとまわった。

「おなじだよ」

そのとき、ひらめいた。^⑤おなじ言葉だけではわからないから、もっとわかりあいたくなるんじゃない?

そうだ、きっとそうだ。すぐにギンコちゃんに話さなきゃと、クロエは思った。

(魚住直子うおずみなおこ『クマのあたりまえ』「そらの青は」より)

(注) 散策……………あてもなく散歩すること。

(1) ①の文章中の(A) (C) に入ることばの組み合わせとしてよいと思われるものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | |
|---|---|-------|---|---------|---|---------|
| ア | A | はっとした | B | 泣きたくなった | C | おこった |
| イ | A | はっとした | B | あわてた | C | 泣きたくなった |
| ウ | A | あわてた | B | はっとした | C | おこった |
| エ | A | あわてた | B | おこった | C | 泣きたくなった |

(2) ①の文章中に——線部①「クロエはきゆうにドキドキしてきた」とありますが、この時のクロエの気持ちにもっとも近いと思われるものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | | |
|---|---------|---|---------|---|---------|---|---------|
| ア | おこった気持ち | イ | かなしい気持ち | ウ | おびえた気持ち | エ | うれしい気持ち |
|---|---------|---|---------|---|---------|---|---------|

国語 (四まいめ)

(3) ①の文章中に——線部②「すごいこと」とありますが、それはどんなことですか。よいと思われるものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア よく晴れた、雲ひとつない青空で、すごくきれいな青だったこと。

イ 小さいときにきいたおとしよりたちのしゃべり方が不思議だったこと。

ウ 色はみんなおなじように見えているわけじゃないらしいこと。

エ 今、空の青をじぶんの目でしっかりと見ていること。

(4) ①の文章中に——線部③「クロエはうれしくなった」とありますが、その理由としてよいと思われるものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア ギンコちゃんクロエの発見を自分と同じようにおもしろいと感じてくれたから。

イ ギンコちゃんが気づかなかったことを発見できて得意に思ったから。

ウ ギンコちゃんがまちがっていることを教えてあげることができたから。

エ ギンコちゃんが意味はわからないけれど楽しそうにクロエと話してくれたから。

(5) ①の文章中に——線部④「そういうこと」とありますが、どういうことですか。答えの最後が「こと」に続く形で本文中から十五字でぬき出して答えなさい。(句読点と記号も一字と数えます。)

(6) ①の文章中に——線部⑤「おなじ言葉だけではわからないから、もっとわかりあいたくなくなるんじゃない?」とありますが、この意味としてよいと思われるものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア ギンコちゃんがほかの鯉たちとおしゃべりしているのを見てもっとかくれたくなること。

イ ギンコちゃんのおもしろいという気持ちをわかるためにもっと話したくなること。

ウ ほかの鯉たちがめったにこない場所にギンコちゃんもつといたいと思ったこと。

エ わたしはわたしだから、ひとりで食べものをさがしてねむろうと思ったこと。

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ぼくは大学院時代に臨海実験所でスルメイカを飼育していた。ぼくがスルメイカを飼育していた水槽は、上から見ると陸上競技のトラックの形をした水槽であった。このあらたな住処で、数十尾のスルメイカは気持ちよさそうに泳いでいた(少なくとも、ぼくにはそのように見えた)。しかし、いつ見ても、彼らの泳ぐ方向は定まっておらず、いふなれば各自が好きなのところへ好きなように泳いでいるという感じであり、これを全体で眺めると トウイツ性はなく、ランダムな印象を与えた。こういう彼らを見ていたので、あちらこちらにフワフワと泳いでいるのがイカというイメージがその当時のぼくの脳裏には描かれていった。

そんな臨海実験所で、夏も終わりのあるとき、ヤリイカが別の水槽に搬入された。ヤリイカは冷水性の種で、北海道での漁獲時期は冬場である。スルメイカと同じくらいの体サイズになり、市場に出た際の値段はスルメイカよりも高い、少し高級なイカである。しかし、夏の終わりに臨海実験所に来てきた珍客のヤリイカは、小型で外套膜の長さがせいぜい一〇センチ程度、個体数は五、六個体くらいであったと思う。

これらのヤリイカは容量千リットルの円形水槽に入れられていた。水槽に収容された生き物にはなんとなく餌をあげたくなるものだが、その日ぼくは特別な思いもなくこの小振りのヤリイカたちに餌を投げ与えてみた。それまでランダムに泳いでいたヤリイカたちは、きれいに横並びになり、小規模ながら群れをつくった。その動きは整然としており、明らかに彼らが外界の変化(この場合

国語 (五まいめ)

はぼくという異種が何かを彼らにしようとしているということ) に対応して特別な行動をとったように見えた。身体は小さくてもまるである種の訓練を受けたようにその行動の変化はともきれいに見えた。それまでなんとなく散漫なイメージをもって水槽内を泳いでいるスルメイカを見ていたぼくはヤリイカたちが見せた行動に少なからぬ驚きを覚えた。「同じイカでもこんなに違うのか……」と。

スルメイカとヤリイカは体つきもよく ^b二ており、そもそも一般の人から見ればどちらも同じイカであり、違うのは刺し身にしたときの値段くらいかもしれない。しかし、生物学的に見ればこれら二種は実はずいぶん異なる。

まず、分類学的に見ると科が異なっており、スルメイカはアカイカ科、ヤリイカはジンドウイカ科という科に属している。それを反映するように、身体の構造をよく見るとスルメイカとヤリイカではいろいろな点が異なっている。たとえば、眼に注目すると、ヤリイカの眼は角膜の外側を透明な膜がおおっているが、スルメイカにはそのような構造はない。

分布場所の違いから、水槽内で見られたヤリイカとスルメイカの振る舞いの相違について考えてみる。そもそも、ヤリイカは沿岸という他の海洋生物がおり、海藻や岩などの構造物もある視覚的にも触覚的にも複雑で多様な環境で暮らしている。そこでは、同種が整然とした群れをつくることは、防衛や捕食といった観点から有効であろう。つまりは、そういった行動の特性が身についているといえる。そのため、それがたとえ水槽という人工的な環境であっても、彼らにいつも通りのきれいな群れを瞬時にしてつくらせたのではないだろうか。

かたやスルメイカは、特別な構造物もなく、沿岸に比べれば海洋生物が必ずしも高密度には分布していない外洋という環境に暮らしている。実際に、藻場やサンゴ礁がある沿岸のほうが外洋に比べてさまざまな種が生息している場であるといえる。そのような沿岸とは対照的な特性を持った外洋にあって、スルメイカはヤリイカほどにはすばやく整然とした行動をとる必要はないのではないだろうか。

確かに、スルメイカは群れをつくるが、それはいうなれば隣のイカにならって自分も泳げばよいような群れなのではないだろうか。何も考えずに、隣のイカにならって泳いでいけばよい。それを何十、何百というイカが同時に行っていけば、魚群探知機で見つかるような大規模なスルメイカの群れとなるのではないだろうか。要するに、スルメイカの群れは、規模は大きいとその構造はわりと単純。そういうイカが大海に比べればずっと小さな水槽という空間に入れられると、各自が雑然と泳ぐランダムな集団になるのではないだろうか。

逆にいえば、スルメイカという外洋性のイカが本来の群れをつくるには、それなりの空間が必要で、狭い場所では群れという構造をつくるのが彼らにはできないのではないだろうか。これに対して、ヤリイカはもとも沿岸という複雑な場にあつて、スルメイカに比べればおそらくいろいろな機能をもつ群れをつくることのできたのではないだろうか。車にたとえていえば、ヤリイカは小まわりのきく軽自動車、スルメイカはサイズこそ大きいがこみ入った動きは苦手な大型バスといったところだろうか。

……………(オ)

スルメイカとヤリイカに見られたように、一口にイカの群れといってもその規模や中身は大きく異なっている。複雑な環境に暮らすヤリイカは社会性が高く、それは彼らの示すまとまりのとれた群れ行動に現れている。一方のスルメイカは、群れという点ではヤリイカよりも構成員の多い大規模なものをつくる。しかし、それは外洋で生活する上で機能する集合体で、必ずしもまとまっている必要はなく、同じ目的地に向かうもの同士が集まってさえいればよい。

もちろん、大勢の同種が集まっていることで、外敵に襲われた際に自身が犠牲になる確率が低くなるといった群れのもつ利点を得ることはできるであろう。しかし、スルメイカの群れは、群れを構成するメンバー個々が互いを認識し合い、それゆえにある種の役割を分担し合えるような、より発達し

国語 (六まいめ)

た機能をもつ群れではないのかもしれない。ひたすら水が広がっているだけの外洋環境では、^②そのような小まわりのきく群れは必要ないと思われるからだ。いくなれば、同じく外洋で生活するマダラなどの魚群と同じような意味合いの群れをスルメイカはつくっているのかもしれない。

(池田 譲『イカの心を探る 知の世界に生きる海の霊長類』より)

- (注) 臨海実験所……………海洋や海の生物の研究のために海の近くに設置された実験所。
ランダム……………ばらばらなさま。
外套膜……………イカなどの体の表面をおおう膜。
散漫……………まとまりのないさま。
角膜……………眼球の前面をおおう透明な膜。
外洋……………陸地から離れた広々とした海。
沿岸……………海の陸地にそった部分。
捕食……………他の動物を餌として食べること。
特性……………そのものだけが持つ特別な性質。
機能……………はたらき。
社会性……………集団をつくって生活しようとする能力。

(1) ②の文章中の□の中に入れるとよいと思われることばを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア しかし イ ところで ウ だから エ すると

(2) ②の文章中に——線部①「きれいに横並びになり、小規模ながら群れをつくった」とありますが、ヤリイカがこのような群れをつくることについて、筆者はどのように考えていますか。次のア～エからよいと思われるものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ヤリイカが生活する広い外洋では、移動するためには整然とした群れの方がよいのだろう。
イ ヤリイカは、防衛や捕食のために整然とした群れをつくる特性が身についているのだろう。
ウ 複雑な環境で生活しているヤリイカは、群れをつくるための時間がかかるのだろう。
エ ヤリイカは、水槽という人工的な環境に危険を感じたために群れをつくったのだろう。

(3) 次の文章は②の文章からぬき出したものです。この文章は、本文中の(ア)～(オ)のどこに入りますか。よいと思われるものを一つ選び、記号で答えなさい。

次に、生息域を比べると、アカイカ科は主に外洋に分布するが、ジンドウイカ科は沿岸に分布する。いくなれば、スルメイカは外海という広い環境を豪快に動き回り、ヤリイカは沿岸という複雑な環境に身を置いている。このような相違は、両者の集団サイズの違いにも見られ、スルメイカは大規模な集団で海の中を移動しているが、ヤリイカはもう少し小さな集団である。

(4) ②の文章中に——線部②「そのような小まわりのきく群れ」とあります。これについて説明した次の文章の()に入れるとよいと思われる、六字のことばを本文中からぬき出して答えなさい。(句読点と記号も一字と数えます。)

《説明の文》

群れをつくっているイカ同士がおたがいを仲間だとわかっており、群れの中での役割分担までできるような、より()をもつ群れ。

国語 (七まいめ)

(5) ②の文章全体を通して述べられている内容として、よいと思われるものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 集団として整然とした行動をするスルメイカの方がヤリイカよりすぐれている。
イ ヤリイカは、海や水槽という環境に合わせてすばやく群れの形を変化させる。
ウ イカは、それぞれの種の生活する環境に合わせて、異なった機能を持つ群れをつくる。
エ スルメイカが群れをつくらないのは、生活する外洋環境には必要ないからである。

(6) ②の文章中の――線部 a 「トウイツ」 b 「二」をそれぞれ漢字に直しなさい。

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

陽が西に傾いて、建物の影が長く落ち、そろそろ夕暮れの気配が漂うという時刻、見知らぬ町に降り立つというのは、(a) 風情があるものの、やはり心細さが先に立つものだ。しかも、それが海外となると、ことさらである。

韓国・金浦空港からその街へ向かうだけでも、^① すんなりというわけにはいかなかった。空港内では向こうから声をかけてきた人が、私たちが希望しているのとは違うバス停を教えたからだ。こちらは当てずっぽうに毛が生えた程度にしかハングルが読めない。いざバスに乗りこもうという段になって、改めて運転士に行き先を確認したからよかったようなものの、そうでなければ完全に迷子になっていた。その結果、時間をロスしたのはもちろんのこと、ちよつと不快な気分にもなった。

腹立ち紛れに声をかけてきた男性の悪口を言いながら、先ほどとはまったく違うバス停まで移動して、寒風の中で時間を過ごし、ようやくやって来た全州行き的高速バスに乗り込んだのだ。終点まではおおよそ三時間半。途中のサービスエリアで一度トイレ休憩をはさみつつ、バスは午後の陽射しの中を南へとひた走った。

座席の三列ほど前方に、若い男性が一人で乗っていた。バスに乗り込んだときには、確か、韓国人らしく見えたのだが、何気なく後ろからながめていると、日本のスポーツ新聞を広げて読んでいる。もともとそれほど正確に見分けられる目も持っていないから、ああ、日本人だったのかと思った。

日本よりも西に位置する韓国は、日暮れの時刻も東京に比べて一時間前後は遅い。その陽が西に傾き始めた頃、私たちは全州に着いたのだ。ここでバスを乗り継がなければならない。ところが私たちの乗っていたバスは、バスターミナルとはまるで異なる、大通りに面して建ってもいない古いホテルの前に止まって、そこが終点ということだった。さほど多くなかった乗客は、バスから降りるなり、瞬く間に四方に散っていた。

(b)、ホテルのフロントでタクシーを呼んでもらおう

友人と相談した上で歩き始めたが、そのホテルというのが妙に高い塙に囲まれた建物で、入り口さえ容易に見つからない。コロコロと荷物を引っ張りながら右へ左へと歩き回っているときだった。「どちらへ行かれるんですか」

韓国訛りの日本語だ。振り向くと、長身の青年がこちらを見ている。

「光州なんです」

私たちの答えに、彼は「光州？」と首を傾げた。

「それなら、光州行きのバスに乗ればよかったですねじゃないんですか？」

「私たちは金浦空港から乗ったものですから、光州行きはなくて」

青年は「ああ」と納得したようにうなずいた上で、ここから光州に向かうにはバスターミナルまで行く必要があると教えてくれた。

「タクシーで行っても十分かそこいらだろうと思います。多分、基本料金がそれより少し出るくらい」

国語 (八まいめ)

そのとき、その青年が私の数列前に座^{すわ}っていた人だと気がついた。彼のとなりには六十過ぎくらいに見える女性が立っている。一見して彼の母親だと分かるが、それにしても②髪には強めのパーマをあてて、ずい分としっかりした化粧^{けしょう}をしている女性だった。口紅^{くちべに}の鮮^{あざ}やかなピンクが目^めに焼きつくほどだ。彼女は黙^{だま}って息子^{むすこ}と私たちのやり取りを見守っている。

「(c) 日本人かと思いました。だって、日本語の新聞を読んでいたでしょう？」

「ああ、そうですね」

「日本語、お上手^{じょうず}なんです」

「実は僕^{ぼく}、ずっと日本に留学^{りゅうがく}していたんです。それで今日、戻^{もど}ってきたところです」

ああ、そういうことかと思った。それで母親が迎^{むか}えに来ているのだ。久しぶりに会う息子のために、母親はいつになく気合を入れて、一生懸命^{いっけんめい}にお洒落^{しゃれ}をしてきたのに違^{ちが}いない。こちらと目が合う度^{たび}に、彼女は少し恥^はずかしげな表情で、手振り^{てぶ}りだけで「どうぞ、この子を使^{つか}ってやって」という仕草^{しぐさ}を見せた。その後、青年は私たちのために通りかかったタクシーを呼び止め、運転手^{うんてんしゅ}に行き先を告げて、さらに荷物の積み込みまで手伝^{てつだ}ってくれた。その間、彼の母親は終始^{しゅうし}うれしそうな表情で、息子を見守っている。しばらく会^あわれない間にみごとな日本語を操^{あやつ}るようになり、そうして見知らぬ旅人に親切^{しんせつ}にしている我が子がA^あならぬ様子^{ようす}だ。

「ありがとうございます」

夕暮^{せき}れが迫^{せま}る見知らぬ街の、右も左も分からない片隅^{かたすみ}で、私たちは長身の青年を見上げた。

「こんなに親切^{しんせつ}にしていただいて」

すると青年はにっこり笑いながら「僕も」と口を開いた。

「日本に行ったとき、同じように親切^{しんせつ}にしてもらいましたから」

彼は最後に「気をつけて」と言いながら、タクシーのドアを閉^しめてくれた。その向こうで、濃^こい口紅^{くちべに}の母親も、にこにことうれしそうに手を振っていた。

ああ、こういうものだと思った。

(d) 本人は忘^{わす}れているに違^{ちが}いない。だがとにかく、ある日一人の外国人に、何気なく手をさしのべてくれた誰^{だれ}かのお蔭^{かげ}で、今こうして不安な旅人が救われた。見知らぬその人のお蔭で、私たちの旅は幸^{さい}先の良いものに変わり、ほんのわずかな時間立ち寄^{とど}りただけの街の印象までが、いいものになった。それが、人と人とのつながりというものだ。どこでどう巡^{めぐ}ってくるか分からない。だからおもしろくもあり、怖^{おそ}ろしくもあるのである。

(日本経済新聞社編『日曜日の随想』乃南アサ「見知らぬ街で」より)

(注) 風情……よい雰^{ふん}囲^い気。

当てずっぽうに毛が生えた程度……ほとんどよくわからないということ。

ハングル……韓国の文字。

終始……ずっと。

幸先の良い……よいことがありそうな感じ。

(1) ③の文章中の(a) (d)に入る言葉の組み合わせとしてよいと思われるものを、次のアから一つ選び、記号で答えなさい。

ア	a	きつと	b	てつきり	c	それなりに	d	とりあえず
イ	a	てつきり	b	きつと	c	とりあえず	d	それなりに
ウ	a	とりあえず	b	それなりに	c	きつと	d	てつきり
エ	a	それなりに	b	とりあえず	c	てつきり	d	きつと

国語 (九まいめ)

(2) ③の文章中の **A** に入る言葉としてよいと思われるものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 誇^{ほこ}らしくて イ 腹立たしくて ウ 恥ずかしくて エ うらやましくて

(3) ③の文章中に――線部①「すんなりというわけにはいかなかった」とありますが、その内容としてふさわしくないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 違うバス停を教えられ、その後移動して寒風の中で時間を過ごしたこと。
イ 終点までおよそ三時間半、光州行き的高速バスで南へひた走ったこと。
ウ 高速バスを乗り継ぐのに終点がバスターミナルではなかったこと。
エ ホテルの入り口を探して荷物を引っ張りながら歩き回ったこと。

(4) ③の文章中に――線部②「髪には強めのパーマをあてて、ずい分としっかりした化粧をしている」とありますが、その理由を筆者はどのように考えていますか。その考えがわかる一文の最初の五字をぬき出して答えなさい。(句読点と記号も一字と数えます。)

(5) ③の文章を通して、筆者がもつとも伝えたいと思っていることは、どういうことですか。本文中のことはを用いて、答えの最後が「ということ。」に続くように、四十字以内で答えなさい。(句読点と記号も一字と数えます。)

受験番号

1

1. ☐
2. ☐
3. ☐
4. ☐

$$\left[\begin{array}{c} \otimes \\ \otimes \end{array} \right] \left(\begin{array}{c} \otimes \\ \otimes \end{array} \right)$$

2

- (1) 
- (2) 
- (3) 

$$\left[\begin{array}{c} \times \\ \times \\ \times \end{array} \right] \quad \left(\begin{array}{c} \times \\ \times \\ \times \end{array} \right)$$

(6)

	a
	b

(4)

3

- (1) 
- (2) 
- (3) 

(4)

5

$$\left[\begin{array}{c} \times \\ \times \\ \times \end{array} \right] \quad \left(\begin{array}{c} \times \\ \times \\ \times \end{array} \right)$$

(5)

[illegible]